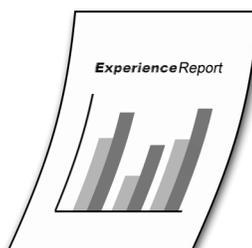


iSeries



ジョブ・アカウンティング

Experience Report



iSeries



ジョブ・アカウントティング

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Job Accounting
Experience Report

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

ジョブ・アカウンティング	1
ジョブ・アカウンティングのセットアップ	1
収集したデータの表示	2
データの分析	3
表: JB、DP、および SP ジャーナル・エントリー	5
例: ユーザー・プロファイルのアカウンティング・コードを変更する CL プログラム	8
特記事項	11

ジョブ・アカウントिंग

ジョブ・アカウントINGは、システム・リソースの使用率の追跡に使用できる、各 iSeriesTM サーバー上で有効な機能です。システム値ジャーナル会計情報 (QACGLVL) は、システム会計ジャーナル (QACGJRN) に対してジャーナル処理されるシステム使用率情報のタイプを判別します。収集可能な情報のタイプには、処理装置使用時間 (CPU)、トランザクション数、ジョブが活動状態であった時間、データベースの操作数、通信オペレーションおよび印刷ページ数などがあります。アカウントING・ジャーナル・エントリーの全フィールドのリストは、5 ページの『表: JB、DP、および SP ジャーナル・エントリー』にあります。この情報は特定のユーザーやユーザー・グループのリソース使用率を追跡するのに利用できません。システム・リソースの使用に応じてユーザーに課金する、パフォーマンスを分析する、または統計的分析を行うなどさまざまな目的でこのデータを利用するため、クエリーやアプリケーション・プログラムを作成できます。この経験報告では、ジョブ・アカウントINGのセットアップ方法、事前開始ジョブやサーバー・ジョブの特別な考慮事項、および収集したデータの調査方法などが取り上げられています。

以下のセクションに、追加情報を記載します。

『ジョブ・アカウントINGのセットアップ』

2 ページの『収集したデータの表示』

3 ページの『データの分析』

5 ページの『表: JB、DP、および SP ジャーナル・エントリー』

8 ページの『例: ユーザー・プロファイルのアカウントING・コードを変更する CL プログラム』

ジョブ・アカウントINGのセットアップ

ジョブ・アカウントING機能はデフォルトでは非アクティブです。これをセットアップするには、いくつかの初期ステップが必要です。

1. ジャーナル・レシーバー作成 (CRTJRNRCV) コマンドを使用して、ジャーナル・レシーバーを作成します。

ジャーナル・レシーバーは任意に選んだ名前とライブラリーで作成できますが、ACGJRN1 のような命名規則に沿った名前をつけることを推奨します。こうすることで、CHGJRN JRNRCV(*GEN) コマンドで (ACGJRN2、ACGJRN3などの) 追加レシーバーを作成できます。

```
CRTJRNRCV JRNRCV(USERLIB/ACGJRN1)
```

2. ジャーナル作成 (CRTJRN) コマンドを使用して、ジョブ・アカウントING・ジャーナルを作成します。ジャーナルの名前は QSYS/QACGJRN でなければならず、QSYS ライブラリーにオブジェクトを追加する権限が必要です。

```
CRTJRN JRN(QSYS/QACGJRN) JRNRCV(USERLIB/ACGJRN1) AUT(*EXCLUDE)
```

ジャーナル・レシーバーはステップ 1 で作成したレシーバーと同じでなければなりません。権限は任意に選択して設定できますが、収集されるデータは、リソースの使用量に応じた課金を行うために利用されることがあるため、*EXCLUDE 権限の設定を推奨します。

3. システム値の処理 (WRKSYSVAL) コマンドまたは システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドを使用して、リーにオブジェクトを追加する権限が必要です。

"<http://publib.boulder.ibm.com/iseres/v5r3/ic2924/index.htm?info/rzakz/rzakzqacglvl.htm>">システム値ジャーナル会計情報 (QACGLVL) を変更します。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QACGLVL) VALUE('*JOB *PRINT')
```

システム値は、ジャーナル・ジョブ・アカウンティング情報、プリンタ情報、またはその両方に設定できます。収集される全フィールドのリストは、5 ページの『表: JB、DP、および SP ジャーナル・エントリー』のセクションにあります。*JOB はジョブ (JB) ジャーナル・エントリーを作成し、一方 *PRINT は直接印刷 (DP) またはスプール印刷 (SP) ジャーナル・エントリーを作成します。値 *NONE はジャーナル QACGJRN に対してジャーナリングが実行されていないことを示しています。ジョブ・アカウンティング・データは、システム値に *NONE 以外の値が設定された後に開始されたジョブに対してのみジャーナル処理されます。

4. ユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) コマンドまたは ユーザー・プロファイル作成 (CRTUSRPRF) コマンドを使用して、各ユーザー・プロファイルのアカウンティング・コード・パラメーター (ACGCDE) を設定します。アカウンティング・コードは 15 文字以内の英数字で設定できます。ご使用のジョブ・アカウンティング・ジャーナル・エントリーの分析において、現在のユーザーを判別することが重要な場合、ACGCDE パラメーターをユーザー・プロファイル名に設定することを推奨します。

```
CHGUSRPRF USRPRF(USERID1) ACGCDE(USERID1)
```

アカウンティング・コードはジョブ記述変更 (CHGJOB) コマンドまたはジョブ記述作成 (CRTJOB) コマンドを使用して、ユーザー・グループに指定することもできます。ジョブ記述のデフォルトのアカウンティング・コードは *USRPRF です。これはジョブのユーザー・プロファイルからのアカウンティング・コードを使用することを意味しています。ジョブ記述に *USRPRF 以外の値が指定されている場合、この値はユーザー・プロファイルに指定されたアカウンティング・コードよりも優先順位が高くなります。アカウンティング・コードがユーザー・プロファイル名に一致するように、システム上のすべてのユーザー・プロファイルを変更する簡単なプログラムを作成できます。参考用として、8 ページの『例: ユーザー・プロファイルのアカウンティング・コードを変更する CL プログラム』が用意されています。

収集したデータの表示

ジョブ・アカウンティング・ジャーナル (QACGJRN) でデータを収集後、以下のステップを実行し、ジャーナル・エントリーをファイルに書き込んで表示します。

1. 複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ) コマンドを使用して、アカウンティング・ジャーナル用に、システム提供のモデル出力ファイルのコピーを作成する。QAJBACG4 は *TYPE4 出力ファイル・フォーマットのモデル出力ファイルです。

```
CRTDUPOBJ OBJ(QAJBACG4) FROMLIB(QSYS) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(QTEMP)
NEWOBJ(MYJBACG4)
```

2. ジャーナル表示 (DSPJRN) コマンドを使用して、ジャーナル・エントリーを、前のステップで作成した出力ファイルにダンプする。この例では、ジョブ・タイプのジャーナル・エントリー JB のみをダンプします。

```
DSPJRN JRN(QACGJRN) ENTYP(JB) OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILFMT(*TYPE4)
OUTFILE(QTEMP/MYJBACG4)
```

3. SQL 対話式セッションの開始 (STRSQL) コマンドを使用して、SQL セッションを始動する。次に、SQL セッション内から SELECT コマンドを使用して、表示したいフィールドを選択する。フィールド名のリストは5ページの『表: JB、DP、および SP ジャーナル・エントリー』にあります。QUERY 処理 (WRKQRY) コマンドを使用してクエリーを作成および実行することで、同様の情報を対話式で表示したり、ファイルに書き出したりできます。

```
STRSQL
```

```
SELECT JAJOB, JAUSER, JAUSPF, JACDE, JACPU FROM QTEMP/MYJBACG4
```

ジョブ・アカウンティング・ジャーナルへの SQL 出力のサンプルを図 1 に表示します。

JOB NAME	USER NAME	USER PROFILE	ACCOUNTING CODE	CPU
QPADEV0001	JANEDOE	JANEDOE	JANEDOE	2519
BACKUP	QPGMR	QPGMR	QPGMR	55071
BACKUP	QPGMR	BKUP15	BKUP15	1087
QZRCSRVS	QUSER	SMITH	QUSER	1343
QZRCSRVS	QUSER	SMITH	SMITH	53
QZRCSRVS	QUSER	QUSER	SMITH	5070
QZRCSRVS	QUSER	QUSER	QUSER	23

図 1. SQL を使用したジャーナル出力のサンプル

データの分析

ジャーナル・エントリー分析中に、ジャーナル・エントリーがいつどのようにして書き込まれるかを理解することは重要です。JB ジャーナル・エントリーは、ジョブ・アカウンティング・コードが変更されたりジョブが終了したりするたびに、ジョブのジョブ・アカウンティング・ジャーナルに書き込まれます。したがって、1つのジョブが複数のジャーナル・エントリーを持つ場合があります。アカウンティング・コードは以下のいずれかの方法で変更可能です。

- 会計コード変更 (CHGACGCDE) コマンドを使用する。
- 事前開始ジョブの変更 (CHGPJ) コマンドで ACGCDE パラメーターを使用する。
- ジョブ変更 (Change Job) (QWTCHGJB) API を呼び出し、1001 キー (ジョブ・アカウンティング) または 2701 キー (JOB0300 フォーマットに対応するすべてのキー) を指定する。

アカウンティング・コードが変更されると、ジャーナル・エントリーはジョブが始動以降、または、アカウンティング・コードの最後の変更以降のリソースの使用率に関する情報とともに書き込まれます。ジョブが終了すると、ジャーナル処理された情報は、アカウンティング・コードが最後に変更されてからジョブが終了するまでの期間のものになります。例えば、図 2 は 2つのアカウンティング・セグメントを持つジョブを説明しています。

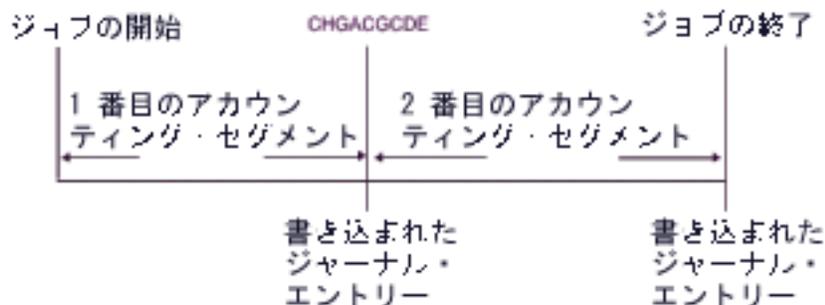


図2. 2 つのアカウントティング・セグメントを持つジョブ

事前開始ジョブおよび事前開始ジョブを使用するはサーバー・ジョブは、ジョブ・アカウントティングに固有の状態を提供します。通常、これらのタイプのジョブは、QUSER などの汎用のユーザー・プロファイルで始動して、要求が処理されるまで待機するように構成されます。処理要求を与えられた事前開始ジョブは、<http://publib.boulder.ibm.com/series/v5r3/ic2924/info/apis/QWTSETP.htm>>プロファイル・ハンドルの設定 (Set Profile Handle) (QWTSETP) API でユーザー・プロファイルをリクエスターのプロファイルにスワップし、要求をサービスしてから、元のユーザー・プロファイルに戻します。事前開始ジョブが再利用されるように構成されている場合 (事前開始ジョブ項目の追加 (ADDPJE) コマンドまたは 事前開始ジョブ項目の変更 (CHGPJE) コマンドに指定された MAXUSE パラメーターが 1 より大きい場合)、ジョブは別の要求を待ち、上記のシナリオを繰り返します。この場合、単一の前開始ジョブは、潜在的に多くの違うユーザーにサービスすることが可能です。これらのユーザーをそれぞれのリソースの使用率に応じて課金できるようにしたい場合、アカウントティング・コードを各サービス要求の前後に更新する必要があります。システムが定義したサーバー・ジョブはすでにそのようになっています。図 3 は 1 人のユーザーにサービスしてから終了する事前開始ジョブを説明しています。

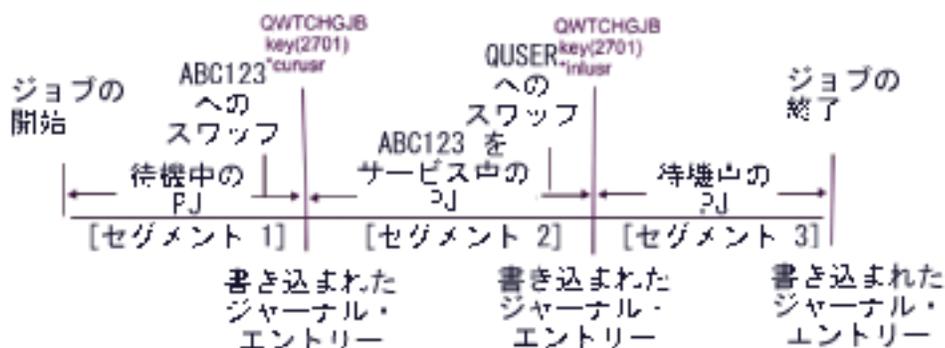


図 3. 3 つのアカウントティング・セグメントを持つジョブの事前開始

図 3 の例に書き込まれた 3 つのジャーナル・エントリーをもう一度確認してみると、SQL やクエリーでフォーマットする場合は次のようになっています。

Journal Entry #	Job Name	Job User	Job Number	User Profile	Accounting Code	CPU	Transactions
1	QSVREX1	QUSER	123456	ABC123	QUSER	50	1
2	QSVREX1	QUSER	123456	QUSER	ABC123	3729	120
3	QSVREX1	QUSER	123456	QUSER	QUSER	73	2

CPU やトランザクションなどのリソースの使用については、アカウントティング・コードに対して課金できますが、必ずしもユーザー・プロファイル・フィールド (JAUSPF) の下にリストされているユーザーに対して課金しなくてもかまいません。ユーザー・プロファイルは、ジャーナル・エントリーが書き込まれている時点での現行ユーザーですが、アカウントティング・セグメント全体を通じて活動状態であったユーザー・プロファイルである必要はありません。この例では、最初の 2 つのセグメントそれぞれでユーザー・プロファイルがスワップされています。ジャーナル・エントリーはスワップ後に書き込まれるので、エントリーにログインしている現行のユーザー・プロファイルは、前のアカウントティング・セグメントでリソースを使用したユーザーのものではありません。

同様に、ジョブ・ユーザーはジョブを起動したユーザーであり、修飾ジョブ名の一部として、別のユーザーへのサービス中であっても変更されないため、リソース使用の課金対象として確実に使用できるわけではありません。アカウントティング・コードはリソース使用の課金に使用可能な、唯一の信頼性の高いフィールドです。アカウントティング・コードは、他のユーザー・フィールドとは異なり、ジョブが変更されるまでそのジョブと一緒に保管されます。変更時には、最初にジョブの現在のアカウントティング・コードがジャーナル・エントリーに書き込まれてから、次に新しいアカウントティング・コードがそのジョブに保管されます。

表: JB、DP、および SP ジャーナル・エントリー

表 1. JB ジャーナル・エントリーで検出されたフィールド

フィールド名	説明	フィールド属性
JAJOB	ジョブ名	文字型 (10)
JAUSER	ジョブ・ユーザー	文字型 (10)
JANBR	ジョブ番号	ゾーン型 (6,0)
JACDE	アカウント・コード	文字型 (15)
JACPU	使用した処理単位時間 (ミリ秒単位)	バック 10 進 (11,0)
JARTGS	ルーティング・ステップ数	バック 10 進 (5,0)
JAEDTE	ジョブがシステムに入力された日付 (mmddy 形式)	文字型 (6)
JAETIM	ジョブがシステムに入力された時刻 (hhmmss 形式)	文字型 (6)
JASDTE	ジョブ開始日付 (mmddy 形式)	文字型 (6)
JASTIM	ジョブ開始時刻 (hhmmss 形式)	文字型 (6)
JATRNT	合計トランザクション時間 (秒単位)	バック 10 進 (11,0)
JATRNS	トランザクション数	バック 10 進 (11,0)
JAAUX	同期補助入出力操作とデータベース操作 (理由を問わずページ不在を含む)	バック 10 進 (11,0)
JATYPE	ジョブ・タイプ	文字型 (1)
JCCDE	ジョブ完了コード	バック 10 進 (3,0)
JALINE	印刷行数	バック 10 進 (11,0)
JAPAGE	印刷ページ数	バック 10 進 (11,0)
JAPRTF	印刷ファイル数	バック 10 進 (11,0)

フィールド名	説明	フィールド属性
JADBPT	データベース書き込み操作回数	バック 10 進 (11,0)
JADBGT	データベース読み取り操作回数	バック 10 進 (11,0)
JADBUP	データベースの更新、削除、FEOD、リリース、コミット、およびロールバック操作の回数	バック 10 進 (11,0)
JACMPT	通信書き込み操作回数	バック 10 進 (11,0)
JACMGT	通信読み取り操作回数	バック 10 進 (11,0)
JAACT	ジョブがアクティブであった時間 (ミリ秒単位)	バック 10 進 (11,0)
JASPN	ジョブが中断状態であった時間 (ミリ秒単位)	バック 10 進 (11,0)
JAEDTL	ジョブがシステムに入力されたタイム・スタンプ (mmddyyyhhmmss)	文字型 (14)
JAESTL	ジョブを開始したタイム・スタンプ (mmddyyyhhmmss)	文字型 (14)
JAAIO	データベースおよびデータベース以外の操作に対する非同期入出力	バック 10 進 (11,0)
JAXCPU	拡張 CPU 使用時間	バック 10 進 (29,0)
JAXSIO	拡張同期補助入出力操作	バック 10 進 (29,0)
JAXAIO	拡張非同期補助入出力操作	バック 10 進 (29,0)
JAXDBP	拡張データベース put 回数	バック 10 進 (29,0)
JAXDBG	拡張データベース get 回数	バック 10 進 (29,0)
JAXDBU	拡張データベース更新および削除回数	バック 10 進 (29,0)

表 2. DP ジャーナル・エントリーで検出されたフィールド

フィールド名	説明	フィールド属性
JAJOB	ジョブ名	文字型 (10)
JAUSER	ジョブ・ユーザー	文字型 (10)
JANBR	ジョブ番号	ゾーン型 (6,0)
JACDE	アカウント・コード	文字型 (15)
JADFN	装置ファイル名	文字型 (10)
JADFNL	装置ファイルが格納されているライブラリー	文字型 (10)
JADEVN	装置名	文字型 (10)
JADEVT	装置タイプ	文字型 (4)
JADEVM	装置モデル	文字型 (4)
JATPAG	製造された印刷ページの総数	バック 10 進 (11,0)
JATLIN	製造された印刷行の総数	バック 10 進 (11,0)
JASPFN	常に空白	文字型 (10)
JASPNB	常に空白	文字型 (4)
JAOPTY	常に空白	文字型 (1)
JAFMTP	常に空白	文字型 (10)

フィールド名	説明	フィールド属性
JABYTE	常に 0	バック 10 進 (15,0)
JAUSRD	ユーザー・データ	文字型 (10)
JALSPN	常に空白	文字型 (6)
JASPSY	常に空白	文字型 (8)
JASPDT	常に空白	文字型 (7)
JASPTM	常に空白	文字型 (6)
JADFASP	常に空白	文字型 (10)

表 3. SP ジャーナル・エントリーで検出されたフィールド

フィールド名	説明	フィールド属性
JAJOB	ジョブ名	文字型 (10)
JAUSER	ジョブ・ユーザー	文字型 (10)
JANBR	ジョブ番号	ゾーン型 (6,0)
JACDE	アカウント・コード	文字型 (15)
JADFN	装置ファイル名	文字型 (10)
JADFNL	装置ファイルが格納されているライブラリー	文字型 (10)
JADEVN	装置名	文字型 (10)
JADEVT	装置タイプ	文字型 (4)
JADEVM	装置モデル	文字型 (4)
JATPAG	製造された印刷ページの総数	バック 10 進 (11,0)
JATLIN	製造された印刷行の総数	バック 10 進 (11,0)
JASPFN	スプール・ファイル名	文字型 (10)
JASPNB	スプール・ファイル番号 (長すぎる場合は空白)	文字型 (4)
JAOPY	出力優先順位	文字型 (1)
JAFMTP	用紙タイプ	文字型 (10)
JABYTE	プリンターに送信されたバイトの総数	バック 10 進 (15,0)
JAUSRD	ユーザー・データ	文字型 (10)
JALSPN	スプール・ファイル番号	文字型 (6)
JASPSY	スプール・ファイル・ジョブ・システム名	文字型 (8)
JASPDT	スプール・ファイル作成日 (cyymmdd 形式)	文字型 (7)
JASPTM	スプール・ファイル作成時刻 (hhmmss 形式)	文字型 (6)
JADFASP	装置ファイル・ライブラリーの ASP 名	文字型 (10)

例: ユーザー・プロファイルのアカウントिंग・コードを変更する CL プログラム

これは、システム上のすべてのユーザー・プロファイルのリストを検索し、各ユーザー・プロファイル中のアカウントिंग・コードをユーザー・プロファイル名に一致するように変更するプログラムの例です。このプログラムは、iSeries コマンド言語 (CL) で書かれています。このサンプル・プログラムでは、損傷のあるユーザー・プロファイルや、システム・ユーザー・プロファイルはチェックしません。このほかに、例外処理や状況検査が必要になる場合があります。またこのプログラムは、システムのユーザー・プロファイルが 1000 を超える場合にも修正が必要になります。必要に応じてプログラムをカスタマイズし、アカウントिंग・コードに、ユーザー・プロファイル名に基づいた 5 文字までを追加することができます。

注: 重要なリーガル情報 (法律的事柄に関する情報) については、『コード例の特記事項』をお読みください。

PGM

```
DCL      VAR(&USRSPC) TYPE(*CHAR) LEN(20)      +
        VALUE('PROFILESUSQTEMP  ')
DCL      VAR(&USLEN) TYPE(*CHAR) LEN(4)        +
        VALUE(X'00500000') /* Size of user
        space */
DCL      VAR(&USAUT) TYPE(*CHAR) LEN(10)       +
        VALUE('*EXCLUDE ') /* authority */
DCL      VAR(&USRPL) TYPE(*CHAR) LEN(10)       +
        VALUE('*YES  ') /* replace
        existing user space */
DCL      VAR(&NUMENT) TYPE(*CHAR) LEN(4) /* Number +
        of entries from list object */
DCL      VAR(&NUMENTB) TYPE(*DEC) LEN(4 0)/* Number +
        of user profiles
        */
DCL      VAR(&COUNT) TYPE(*DEC) LEN(4 0) VALUE(0)
DCL      VAR(&ENTRYLEN) TYPE(*CHAR) LEN(4)
        /* Entry length
        */
DCL      VAR(&ENTRYLENB) TYPE(*DEC) LEN(5 0)
        /* Entry length in decimal format
        */
DCL      VAR(&OFFSETUS) TYPE(*CHAR) LEN(4)
        /* Offset to profile entries
        */
DCL      VAR(&OFFSETUSB) TYPE(*DEC) LEN(6 0)
        /* Offset to profile entries
        */
DCL      VAR(&START) TYPE(*CHAR) LEN(4)
        VALUE(X'00000001') /* Starting position +
        in user space that is to be retrieved */
DCL      VAR(&SIZE) TYPE(*CHAR) LEN(4)
        VALUE(X'0000008C') /* Number of bytes to +
        be retrieved from user space
        */
DCL      VAR(&GENHDR) TYPE(*CHAR) LEN(300) /* Generic +
        header information from the user space */
DCL      VAR(&RECVAR0100) TYPE(*CHAR) LEN(32000)
DCL      VAR(&FORMAT) TYPE(*CHAR) LEN(8)
        VALUE('OBJL0100')
DCL      VAR(&OBJNAME) TYPE(*CHAR) LEN(20) +
        VALUE('*ALL  QSYS  ')
DCL      VAR(&UPNAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
        VALUE(' ')
DCL      VAR(&OBJTYPE) TYPE(*CHAR) LEN(10) +
        VALUE('*USRPRF ')
DCL      VAR(&ERRCODE) TYPE(*CHAR) LEN(8) +
        VALUE(X'0000000000000000')
/*****/
/* Create a user space
*/
/*****/
CALL PGM(QSYS/QUSCRTUS) PARM(&USRSPC ' ' +
&USLEN ' ' &USAUT ' ' &USRPL &ERRCODE )
/*****/
```

```

/* Call the QUSLOBJ API to get a list of user profiles */
/*****/
CALL      PGM(QSYS/QUSLOBJ) PARM( +
          &USRSPC &FORMAT &OBJNAME  +
          &OBJTYPE &ERRCODE )
MONMSG   MSGID(CPF0000) +
          EXEC(GOTO CMDLBL(ABORT))

/*****/
/* READ THE GENERIC HEADER FROM THE USER SPACE */
/* to find the number of user profiles returned and the length of */
/* each entry. */
/*****/
CALL PGM(QSYS/QUSRTVUS) PARM(&USRSPC &START      +
          &SIZE &GENHDR &ERRCODE)
/*      number of profile entries in list */
CHGVAR  VAR(&NUMENT) VALUE(%SST(&GENHDR 133 4))
CHGVAR  VAR(&NUMENTB) VALUE(%BIN(&NUMENT))
/*      length of each profile entry */
CHGVAR  VAR(&ENTRYLEN) VALUE(%SST(&GENHDR 137 4))
CHGVAR  VAR(&ENTRYLENB) VALUE(%BIN(&ENTRYLEN))
/*      offset to first profile entry */
CHGVAR  VAR(&OFFSETUS) VALUE(%SST(&GENHDR 125 4))
CHGVAR  VAR(&OFFSETUSB) VALUE(%BIN(&OFFSETUS) + 1)
CHGVAR  VAR(%BIN(&OFFSETUS)) VALUE(&OFFSETUSB)
/*      size of user space used */
CHGVAR  VAR(&USLEN) VALUE(%SST(&GENHDR 105 4))

/*****/
/* RETRIEVE NAMES DATA FROM THE USER SPACE */
/*****/
CALL PGM(QSYS/QUSRTVUS) PARM(&USRSPC      +
          &START &USLEN &RECVAR0100 &ERRCODE)

NEXTENTRY:
  CHGVAR VAR(&UPNAME)      +
    VALUE(%SST(&RECVAR0100 &OFFSETUSB 10))
/*****/
/* Change the user profile's accounting code to the */
/* user profile name. */
/*****/
CHGUSRPRF USRPRF(&UPNAME) ACGCDE(&UPNAME)
MONMSG   MSGID(CPF0000)

  CHGVAR VAR(&OFFSETUSB) VALUE(&OFFSETUSB + &ENTRYLENB)
  CHGVAR VAR(&COUNT) VALUE(&COUNT + 1)
  IF COND(&COUNT *LT &NUMENTB) THEN(GOTO CMDLBL(NEXTENTRY))

ABORT:
/*****/
/* Delete the user space */
/*****/
DLTUSRSPC USRSPC(QTEMP/PROFILESUS)
MONMSG   MSGID(CPF0000)

ENDPGM

```

特記事項

本書の情報は特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。他社製品への言及および参照は、単に情報提供目的で記載されたものであり、IBM がそれらの製品を推奨するものではありません。

本書に含まれるパフォーマンス・データは、管理環境下で標準の IBM ベンチマークを使用し得られた測定結果と予測に基づくものです。ユーザーが実際に得られるスループットまたはパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、I/O 構成、記憶域構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項によって異なります。したがって、個々のユーザーがここで述べるパフォーマンスの向上を得られるという保証はありません。



Printed in Japan